

はじめに

本事業では、農業および農業をめぐるサイエンス（農学）に関する大学の知を地域社会に還元し、未来の食と環境を考える機会を共有することを目的としている。未就学児・小学生からシニア世代までの幅広い年齢層を対象に、研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールドでの実体験から最先端の植物科学に関する講演会など、多角的なアプローチからなる以下の4つの事業を展開した。

1. 農場講演会

1-1. 第1回（開催日：令和6年8月6日、場所：東郷町大会議室）

東郷町産業振興課との協力のもと、生物機能開発利用研究センターの辻寛之教授による講演会「植物に花を咲かせるフロリゲン」を開催した。東郷町の「農業の未来会議（東郷農学校）」のメンバーの他に、東郷町の広報を通じて一般にも広く周知した。また、研究科のホームページにも案内を掲載した。東郷農学校から7名、一般から11名、本学関係者9名、合計27名が参加した。講演会では、辻教授より植物が花を咲かせるメカニズムや農業生産との関わりを分かりやすく解説いただくとともに、開花に関わる重要な因子フロリゲンに関する最先端の研究について紹介いただいた。



名古屋大学農場講演会
産業振興課

植物に花を咲かせるフロリゲン

▼とき 8月6日（火）午後2時～4時00分

▼ところ 役場大会議室

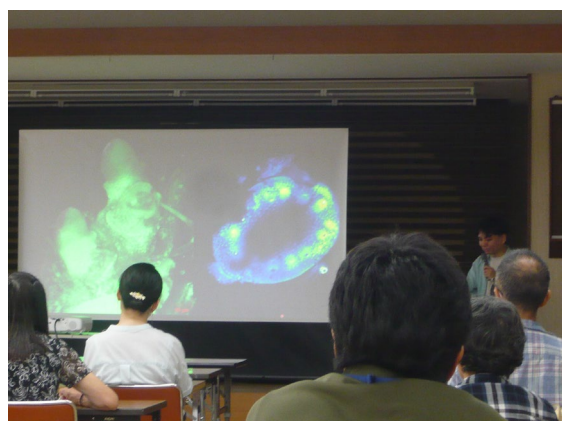
▼講師 辻寛之（名古屋大学・生物機能開発利用研究センター教授）

▼定員 50人

▼参加料 無料

▼内容 植物の花を咲かせるための最強の運命決定因子「フロリゲン」について分かりやすくお話しいただきます

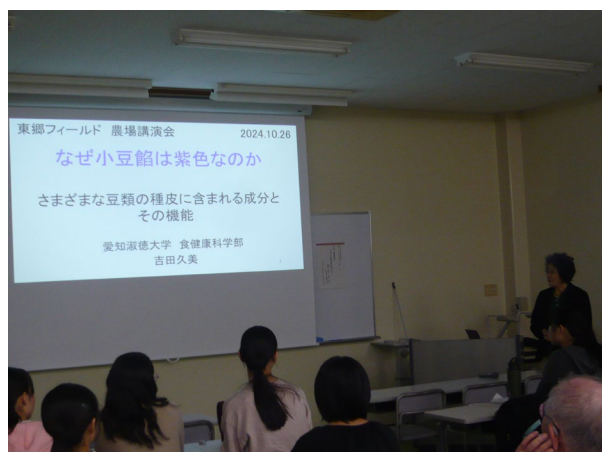
▼問合せ 名古屋大学東郷フィールド事務室 ☎0561（37）0200



1-2. 第2回（開催日：令和6年10月28日、場所：研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールド）

東郷町および名古屋大学教育学部附属中・高等学校との連携のもと、名古屋大学大学院情報学研究科名誉教授（現・愛知淑徳大学食健康科学部教授）の吉田久美博士による講演会「なぜ小豆餡は紫色なのか」を開催した。東郷町の広報、附属学校での案内、生命農学研究科のホームページを通じて案内を行った。東郷農学校のメンバー他4名と附属中・高等学校の生徒・教員15名が参加し、さまざまな豆類の種皮に含まれる成分とその機能について分かりやすく解説いただき、植物成分とヒトの健康について議論を含めた。講演後は附属学校の生徒から活発な質問があった。

講演会のあとは東郷フィールドの紹介を行い、つづいて東郷フィールド教員による施設見学会を行った。果樹園、野菜畑の管理について紹介するとともに、東郷フィールドで長年実施している有機質肥料連用試験圃場を見学した。また、イネの遺伝育種やUAV（ドローン）による圃場画像情報の取得と解析、大型家畜動物の生殖科学に関する各教員の研究内容を実物に触れながら紹介した。



2. 農業ふれあい教室（開催日：令和6年10月5日、場所：研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールド）

小学生とその家族を対象に東郷町、三好市の広報、研究科のホームページにて募集を行い、16家族、合計47名の参加を得て、農業ふれあい教室を開催した。

はじめに田原保樹技術職員から、準備期間に撮影した写真や資料をもとに、さつまいもと落花生の栽培と成長の過程についての解説があった。その後栽培圃場に移動し、実際の作物を前にその特徴を解説した。収穫方法についての説明と留意事項の周知の後、各自で収穫を行った。東郷フィールドの教員および大学院生が安全確保と収穫補助に従事した。参加小学生それぞれが収穫した最も大きなさつまいもを持ち寄りその重量を計測し、上位3名を表彰した。

収穫体験の後は東郷フィールド内を見学し、動物生産科学部門の教員の解説のもと、黒毛和牛、シバヤギの観察を行った。



3. 職場体験学習（開催日：令和6年9月12-13日、11月26-27日、場所：研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールド）

東郷町立諸輪中学校、春木中学校の職場体験学習プログラムに協力し、それぞれ2名および3名の生徒が東郷フィールドにおける大学教員、技術職員の業務を体験した。

大学教職員の業務の概要を説明した後に、動物生産科学部門では、和牛のブラッシングや直腸検査、シバヤギの爪切り、採血、注射などの具体的な作業を体験した。植物生産科学部門では、遺伝子組み換えの方法や実験室での具体的な研究活動について解説した。また、ブロッコリー、ミニトマト、キャベツの収穫、調整を体験した。

後日職場体験学習を行った生徒から、「普段できない農業という体験ができてとても楽しかった」、「初めてのことばかりだったが、できた時には達成感を味わえた」、「農業という仕事の楽しさややりがいを感じ、農業という仕事への興味がますますわいた」、「今回の体験をこれからの生活に活かしたい」といった感想が寄せられた。

4. サカエ大学Common-S第28回キッズサイエンス（開催日：令和6年5月26日、場所：研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールド）

サカエ大学Common-S主催、名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部、あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク協力の下、第28回キッズサイエンス/松坂屋小学校 名大ハカセからの未来へのメッセージ「名古屋大学の田んぼに行こう♪～田植えを体験し、米作りを学ぼう～」を開催した。ホームページやチラシ広告にて募集を行い、対象となる小学生21名（定員20名）と保護者が参加した。

最初に水田およびおコメに関する座学を行った。村瀬が土壌の肥沃性や物質循環、生息する微生物など、生産現場としての水田の特徴についてミニチュア生態系を使って解説した。次いで生命農学研究科アンドレス・マツラナ准教授が、おコメができるまでの過程やおコメの構造特性やその活用など食品科学に関する基礎知識を解説した。その後東郷フィールドの水田圃場で生育するイネを観察するとともに、実際に田植えを行った。また、水野真也技術職員からバケツイネ栽培の方法について解説があり、自宅でイネの成長観察を行うための土壌と肥料、生育特性の異なる2品種のイネ苗を準備した。

イベント終了後には希望者を対象に東郷フィールド内の見学会を行い、動物生産科学部門の教員から和牛やシバヤギの特徴や関連する研究に関する解説があった。

後日参加者の一人からバケツイネが無事収穫を迎えた旨、お礼とともに報告があった。当日の実施動画とレポートが松坂屋名古屋店のブログに掲載された。

未来の科学者を育てるために～あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワークとCommon-Sサカエ大学のコラボ企画
第28回キッズサイエンス／松坂屋小学校
名大ハカセからの未来へのメッセージ

〔参加費無料〕
名古屋大学の田んぼに行こう♪
～田植えを体験し、米作りを学ぼう～

開催日時
2024.5.26 10:00～12:30

〔講師〕
名古屋大学大学院生命農学研究科
附属フィールド科学教育研究センター
村瀬 潤教授
名古屋大学大学院生命農学研究科
応用生命科学専攻
アンドレス・マツラナ准教授

名古屋大学が持つ3ヘクタールの広い田んぼで、
田植え体験してみませんか？
イネづくりを学んだら、大学で育てたイネの苗を持ち帰り、
おうち栽培にもチャレンジしよう！

〔会場〕名古屋大学 フィールド科学教育研究センター
東郷フィールド
愛知郡東郷町大字諸輪字畑尻94（駐車場あり）

●対象・定員／小学生親子20組（1組につき保護者1人）
※現地集合・解散となります。※雨天でも開催します。雨天時は前日までにメールでご連絡します。
※詳細は、お申込みの方に別途メールにてご案内いたします。

応募はこちらから
〔WEBサイト〕
名大ハカセの虫めがねキッズサイエンスの
ブログからお申込みください
※定員に達し次第締切りとなります。お早めにお申し込みください

主催／サカエ大学Common-S（運営：松坂屋名古屋店）
協力／名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部、あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク
問合せ／名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部、あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク事務局
✉ asf@aip.nagoya-u.ac.jp あいちさいえんす | Q

(<https://shopblog.dmdepart.jp/nagoya/detail/?cd=108109&scd=002293>)

